自動認識システム大賞
「フジサンケイ ビジネスアイ賞」

テーマ

児童がカードをかざすたびに
保護者に到着、出発のメールを送るシステム

技　術　分　野：RFID
申　請　会　社：株式会社レノメディカ
共同申請会社：株式会社マーステクノサイエンス
ユ ー ザ ー 名：自治体、学童保育所、学校、個人塾など。

システムの概要

小学児童が放課後に通う、「学童保育クラブ」に読取機を設置し、児童がカードをかざすたびに保護者に到着、出発のメールを送るシステム。本システムは連絡先を書き込む独自フォーマットのFelicaカード、携帯電話モジュールを組み込んだ読取発信端末のみのシンプルな構成で機能する。読取機に無線モジュールを組込み、電源供給のみの可搬型端末とした事で、広域災害などの際も容易に移設でき、送信メール内容を変更する事により、収容情報を保護者に連絡する事が可能。

システムの特徴

このシステムはもともと医療用に開発したもので、児童が持つカードには、保護者の連絡先の他、アレルギーや禁忌薬情報なども格納可能であり、カード内部を閲覧するソフトがあれば、医療機関や救急車収容時などのオフラインの拠点に於いても児童の健康状態、かかりつけ医療機関、緊急連絡先などを把握する事が可能。

●治療履歴
●検査履歴　●処方薬剤履歴
●こどものアレルギー情報

薬局でも

救急車でも

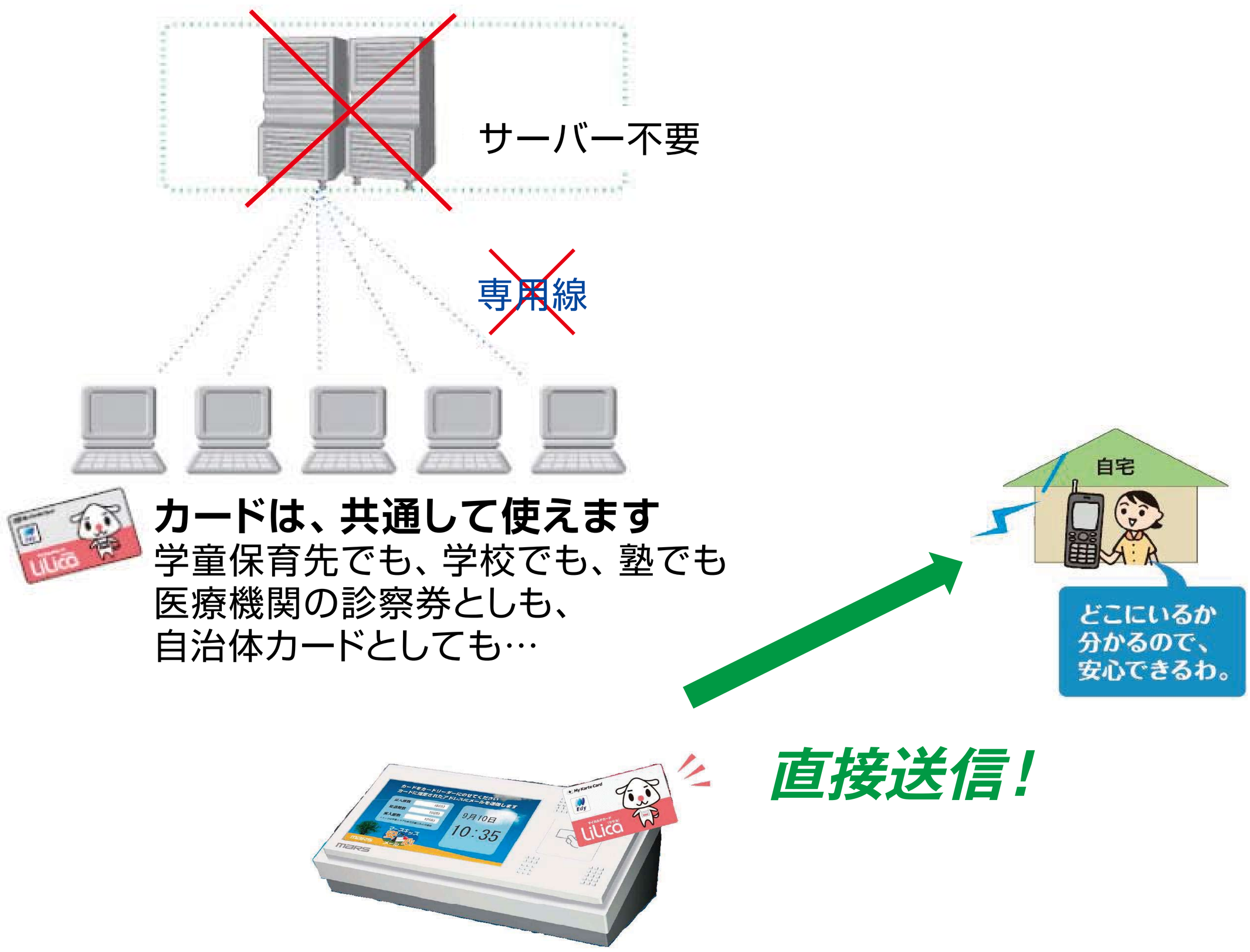
従前のシステムとの違い

従来はシステム毎に専用サーバ、秘匿性に配慮した専用線、システム従事者が必要であり、個人情報保護法への配慮も必要であったが、カードにこれら情報を書き込み、所持者自身が携帯することで個人情報保護法に抵触せず、専従者、専用線インフラコストなどをかけないシステム提案が可能。

またセンターサーバー、アクティブ型ICタグを用いた同人数規模の安否確認サービスと比較しコスト1/20。
（練馬区実証コストと栃木県鹿沼市の事例比較）

現在実証中自治体においても省内ネットワークを利用することなく、システム管理者0人で運用実施。

アクティブ型ICタグなどに比較し電池代コスト不要。カード所持者側にランニングコストの負担なし。



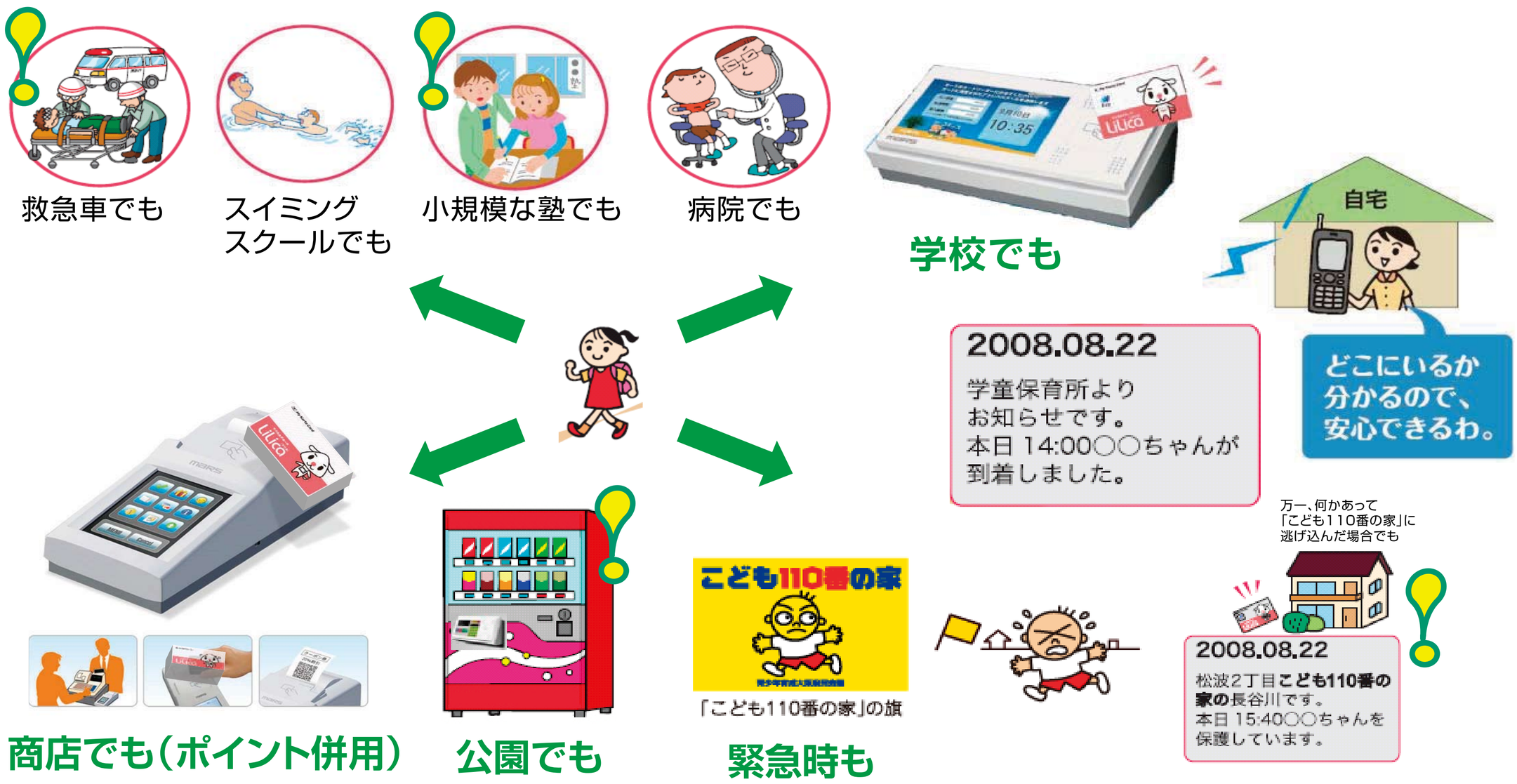
将来の姿

カードを持つ児童は自治体内で学童保育に限らず公園、図書館などに移動する。一元サーバ型などで同様のシステム提案を行う場合、自治体部門間でのサーバー毎の連携、データ統合が必須となるが、本システムの場合、保護者連絡先をカードに書き込んでいるため、読取端末（発信装置）を必要拠点に設置するのみで安否確認個所が完成し、従前のシステムでは不可能だった自治体が発行したカードインフラを民間拠点で再活用する事も可能。
（こども110番やお使いを行う商店内設置など）

また児童館毎のシステム端末に児童の登録を行う方式でない（端末のPC毎に利用者登録を行う方式でない）ため、カードを持つ児童は何処の児童館、公民館の催し等に参加しても、カードをかざすだけで通達を行うことが可能。

またカードに識別子を書き込んであるため、アプリケーション側で識別子に沿った動作を行うことが出来る。
このことで、他自治体が作成したカードにおいても相互の利用を行うことを可能にしている。

区民データサーバーなどに問い合わせる必要なし



従来型官主導のサービスから民間でもカードインフラを利用できるサービスへ。